

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992400139		
法人名	医療法人 光陽会		
事業所名	グループホーム アビタシオン青空		
所在地	高知県吾川郡いの町3611番地5		
自己評価作成日	平成30年6月10日	評価結果 市町村受理日	平成30年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いの町の旧商店街に位置し、近くに店や図書館などの社会資源があるため積極的に活用している。また、1階は小規模多機能事業所となっており、大きな強みになっている。毎朝行われる町の体操には利用者も参加し、そこで顔見知りの地域住民と言葉を交わす機会も多い。また、小規模多機能事業所の利用者とともに、「朝かふえ」、「小規模DEランチ」、「かふえ青空」、「夜のお食事処」など、食にまつわる事業所イベントに参加している。

自分の一番行きたいところはどこか、食べたいものは何か、職員と利用者が対話しながら、利用者の小さな夢の実現をあきらめない支援を行っている。

利用者の生活環境にとって、職員の存在は大変大きな要素を占めていることから、日常のミニトレーニングでケアに対する学びを深めるだけでなく、職員同士が「褒め言葉のシャワー」を行い、互いに長所を伝え合うことで、チームワークを強化している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detai_2018_022_kihontrue&ji_gyosyoCd=3992400139-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	平成30年7月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は旧商店街の一角にあり、1階の小規模多機能事業所は地域住民に日々活用されており、毎日の体操には利用者も参加して知人との交流の場になっている。

事業所設立時に管理者の意見や要望が取り入れられ、生活の場に創意工夫が見られて、居心地よく過ごせる環境にある。居間は広く、高さが調整されたテーブルと椅子、ソファ等が置かれ、天窓からの光で明るく、ゆったり過ごせる共用空間になっている。

事業所は地域の賛助会に加入し、イベントや公園の清掃等に利用者と参加するほか、買物や散歩時には住民との会話も心がけ、地域とのつながりを大切にしている。

介護計画は、職員全員で立案、実施、評価に携わり、課題は理念と目標に立ち戻って、現状に即した個別ケアを重視している。カンファレンスには利用者や家族も参加し、意見や要望等も計画に反映されている。

これからも近隣住民との交流を大切にし、利用者が住み慣れた場所で楽しく、生き生きと暮らし続ける支援ができる事業所運営が期待できる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成した理念を基に、介護職で考えた目標を掲げている。ケアの実践において、その支援の仕方や考え方が理念や目標に沿ったものか、その都度確認している。	地域の中で夢を持ち生き生きと暮らし続けるという理念を支えるサービス方針を分かりやすく掲げて、職員会等で共有している。理念、方針がケアに活かされているかその都度職員同士で確認し、振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階の小規模事業所で毎日行っている体操や認知症カフェの場で、その利用者や地域住民との交流ができています。また、図書館や買い物、散歩など屋外に出る機会も多く、地域住民と言葉を交わしている。	地域のイベントや公園の清掃等に利用者と参加し、近隣での買物には利用者同伴を心がけている。散歩等では近隣住民に声を掛け、日々生活のつながりを大切にしている。小規模多機能事業所での交流が、利用者地域をつなぐ大きな機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、町内の認知症サポーター研修を通じて認知症の理解を広めている。利用者の一人が、その場に参加して町民に自分自身の認知症について語った。また、月に一度認知症カフェをオープンしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では職員の気づき、利用者個別の状態や事故も報告して、参加者と情報共有をしている。報告書を参加していない家族に配布することで、新たな意見を引き出すこともできつつある。	機能評価も含め、事業所の改善課題や取り組み等は報告されているが、取組後の評価記録がない。議事内容は分かりやすく議事録に記載されている。利用者、家族、近隣住民も参加し、出された意見はサービスに活かしている。	外部評価での課題については、目標達成計画に挙げて具体的な改善の取り組みをしているが、成果が記録として残されていない。成果がどうであったかを記録に残し、サービス向上に活かすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加する担当者のみならず、入所前にかかわっていた地域包括支援センターの主任ケアマネージャー等にも状況を伝え、随時相談をしている。	地域包括支援センター担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を報告している。また、日頃から情報共有するなど、相互の協力関係ができています。研修情報も随時ファックスで送られきて、活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、広い視野が持てるよう、ミニトレーニング等を通じて、全職員が理解を深めている。常時屋外に出ようとする利用者もいるが、玄関の施錠は、19時半から翌朝7時までの、職員1名対応時のみとしている。	研修やミニトレーニングを通して、職員一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所は2階のため、全職員が利用者の動きに気配りし、利用者が席を離れる際には制止せず、見守りを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止と認知症についての理解は関連性が強いことから、高齢者虐待だけでなく、職員の認知症の理解を深めている。職員が過度のストレスを溜めないことも重視しており、思ったことが話せる環境づくりをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している利用者はいないが、ミニトレーニング等で制度についての職員理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って、詳しく説明をしている。質問が無い場合でも、これまでに受けた質問等を基に追加説明することで、より理解が深まるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者、家族が事業所に対して何でも言える関係づくりを大切にしている。直接言えない場合には、家族会や第三者委員を設置して話すことができるよう機会を設けている。また、事業所の印象などが気楽に伝えられるよう、声かけをして尋ねている。	家族会の中で家族だけで話し合う場を設けることや第三者委員の設置で、家族の思いを確実に把握する取り組みをしている。意見や苦情は事業所の評価を知る良い機会と捉え、事業所運営の改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や個人面談時だけでなく、管理者は日常的に職員の意見や提案を聞くようにしている。業務の見直しだけでなく、新たな外出支援や行事をしたいというアイデアも出始めている。	職員会、個人面談、更に日々業務の中で管理者は職員の意見や話を聞き、利用者の外出支援や行事に役立てている。職員の意見や提案は、ボトムアップで取り上げ、話しやすい職場環境を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公平な職員の状況把握を行い、本人の努力が賞与等に反映されることは大切と考えている。そのため、年2回の人事考課で自他評価を行っている。個々の向上心に応えられるよう、ミニトレーニングや外部研修の機会を増やしたり、職員間の人間関係にも留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人ひとりのスキルに合わせ、必要に応じて外部研修やミニトレーニングの内容を選択している。代表者は、研修参加促進を含め、長く職員が働き続けることができるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する町のグループホーム勉強会に参加している。他の事業所の見学や研修も積極的に受け入れ、互いの交流ができています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1年以上利用者の入れ替わりがなかったが、新規の受け入れの際には、本人、家族の困りごとや要望などを聞き取る努力をしている。ケアマネージャー等からの情報収集にも気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に利用していたサービスでのトラブル等で悩みを抱えている家族もあり、頻繁に面会したいが帰宅願望につながることを心配する家族には、入所初期には、皆で支えているということの特に本人に伝えるよう助言するなどして、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの時点で本人の入所の意向を確認し、小規模多機能事業所やデイサービス等の在宅サービスについても説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の達成目標として、「あなたの力を借りて運営します」を掲げている。日常的に利用者の力を引き出して家事参加をすすめ、誕生日会などの行事の際には利用者が歌を贈るなど、仲間としての関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に、家族の力も借りて共に利用者を支える方針を説明している。可能な範囲で病院受診、散歩や外出の支援をしてもらうことで、利用者と家族との関係性を維持してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を見に行くこと、行きつけの美容院に行くこと、可能な範囲でかかりつけ医に行くことを支援している。1階の小規模多機能事業所の体操参加でも、地域の馴染みの知人に会って言葉を交わす機会を持っている。入院中の配偶者の見舞いに高知市内の病院を訪問する支援を継続している利用者もいる。	自宅を見に行ったり、高知市内に入院中の家族の見舞いに付き添う等、今までの生活のつながりを積極的に支援している。1階の小規模多機能事業所の体操参加では、馴染みの人と毎日話せる機会になっている。地域のイベントやカラオケでは、家族と一緒に楽しめるように働きかけをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌が好き、自宅が近所である、気が合うなどの利用者相互の関係性を把握している。重度の利用者には、気配りのある利用者近くに座ってもらうなどしている。また、外出などの楽しい機会に同席することで、仲間意識を育てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙を出したり、家族を見かけたら積極的に声をかけるなどして、利用者の状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のC-1-2シートなどを使用して、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員全員で取り組むことで、より深い理解につなげている。思いの変化があった際には、追記することで時系列の把握ができるようにしている。	利用者や家族と必ず話し合い、思いや意向をしっかりと聞いてセンター方式のシートに記入し、その把握に活用している。全職員で取り組み、利用者の生活支援につなげている。また、思いの変化に応じた追加記録の情報共有もできている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に収集した情報だけでなく、これまでの生活歴や経過を深く理解できるように、ご家族やご本人から会話等で情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方は、センター方式のシートを活用して把握している。今できていることが半年後も継続できるように、支援方法を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当職員がおり、モニタリングをする中で気づいた点を伝達し、日々のケアで介護計画に沿った支援ができていくか確認をしている。家族、本人の意向を聞き、職員の意見を加えて、介護計画に活かしている。	介護計画は担当職員の日々のモニタリングをもとに、毎月職員会で必要な見直しを行っている。3ヶ月毎に利用者、家族も含めたカンファレンスを実施し、家族等の意見、要望を介護計画見直しにつなげているほか、利用者の状態に変化があれば、その都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の暮らしの様子が記録できるよう、利用者の暮らしの支援を職員が意識するように、ケース記録から、くらしの記録と改めた。ケアの実践状況を無駄なく、漏れなく記録し、次の介護計画に活かせるようにミニトレーニングで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階の小規模多機能事業所は気軽に訪ねて行ける場所で、毎日の体操、イベントもあり、常に新しい取り組みにチャレンジができていく。また、家族が遠方であったり、行事に参加できない利用者も、本人を中心に出来ることを模索し、笑顔や安心を引き出している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅の地区の集まりや、日帰り旅行に参加している利用者がある。また、週2回以上来てくれている近所住民のキーボード演奏で歌うなど、地域の資源を活用することで日々の暮らしに彩がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在3名が協力医以外の受診をしており、家族対応の場合でも、情報をかかりつけ医に伝達したり、送迎の支援を行っている。協力医がかかりつけ医の利用者でも、セカンドオピニオンで他院受診の際には、家族経由で情報を伝えている。	入所時に希望を聞き、協力医にかかりつけ医を変更する利用者は多いが、本人のそれまでのかかりつけ医受診を重視し、従来のかかりつけ医に家族が同行する際にも、送迎支援を行っている。利用者情報は書面で提供し、受診結果は家族から報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階の小規模多機能事業所の看護職員が日常的に関わっているほか、母体法人内の看護師が健康チェックで週に1回訪問している。随時の相談もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所希望等の相談で、病院の相談員とは日常的に交流が多い。利用者が入院した際には、頻りに顔を出して病状の確認をし、早期に退院できるよう関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には全ての利用者、家族が看取りを希望しており、看取りの指針を説明している。地域の訪問看護師、在宅診療医、薬局と連携して看取りができるよう、情報収集に努めている。	入所時に、重度化した場合における対応と看取りについて説明を行い、事業所での対応内容を家族に説明している。看取りの実績はないが、受け入れの方向で全職員が学習に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミニトレーニング等により、転倒で出血、骨折したと考えられる際の対応について、日常的に職員がイメージができるように取り組んでいる。てんかん発作の場合の対応は、全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、火災想定、地震想定訓練を行った。今後は、仁淀川が氾濫した場合の予想浸水高を踏まえた避難訓練を予定している。防災倉庫が隣地にあり、地域住民の第一集合場所となっていることから、地域の自主防災会との連携ができている。	消防署の協力を得て、火災や地震を想定した避難訓練を、地域住民参加で年2回実施している。耐震構造の事業所は近隣住民の第一集合場所となっており、自主防災会との連携もできている。近くの図書館への避難の際には、利用者の支援を近隣住民が手助けしてくれるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、新任時や日々のミニトレーニングで、プライバシー保護のし合いを頻りに行っている。常に理念に戻り、利用者の尊厳の守り手となれるよう、言葉遣いや対応方法を考えている。	生活の中でのプライバシー保護を職員で話し合い、言葉かけや対応に気配りをしている。排泄時もさり気なく誘導し、汚物は所定袋に入れて目立たないように処理をしている。プライバシーは守るべきものと全職員に意識付け、日々のケアで実践されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との十分なコミュニケーションにより、利用者は自分の希望を自然な形で言葉にできている。言葉にならない場合も、推し測って、一番好きなこと、行きたい所を、利用者目線で考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外の空気を吸いたい、屋外に出たい、歩きたい、買物に行きたい、図書館に行きたいといった個々の要望に、可能な限り待たせずに応えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着易さだけでなく、本人の好みでロングスカートを着用している利用者もあり、ヘアスタイル等も本人らしく整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は米とぎや下ごしらえ、配膳、片づけ等をする役割を担っている。食事は何より楽しみであり、「地元のお弁当探訪」「小規模でランチ」「朝かふえ」「お食事処」などの事業所内イベントを設け、外食にも出かけている。	食材の買い出しには、利用者と一緒に出向いている。利用者は米とぎ、配膳、片づけ等の役割を持って職員と一緒にいる。献立には希望を取り入れ、ラーメン店や寿司弁当店等にも出掛け、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主要な食品が10品目とれるよう配慮している。水分摂取量は業務日誌に一覧にしており、医師の指示がある利用者を除いて、1日1,500CC摂取を目標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の口腔ケアで一日がスタートしている。食後は磨き残し、残差物がないように口腔ケアを支援している。全職員が、口腔内の清潔の有無は健康に直結するとの意識を持っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間も排泄パターンを把握し、睡眠を妨げない範囲で失敗のない排泄を支援している。また、皮膚の状態なども踏まえ、誘導時間の調整をしている。昼は可能な範囲で普通の下着で過ごせるよう、支援をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、日中は布パンツを着用してトイレでの排泄支援ができている。自然食を用いて、自力排便を促す支援を行っている。夜間のトイレ誘導は、間隔に気を付けて睡眠を妨げないように気配りしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と食物繊維を含む食事やおやつ摂取を積極的に支援している。寒天のゼリー、きな粉入りのヨーグルトを毎日摂っており、頑固な便秘の利用者は軽減している。排便の滞りの有無は、業務日誌で一目で分かるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後2時～5時頃までの入浴タイムを毎日設定しているほか、必要に応じて随時入浴支援をしている。安全に入浴できることを基本に、プライバシーを守り、自分で洗えるよう手を出しすぎないように気を付けている。	入浴時間外でも、利用者の希望に応じて個別の入浴支援ができています。毎日入浴する利用者もいるが、2日に一度の入浴が多い。入浴しなかった翌日には声かけを行い、利用者全員が週2日以上の入浴ができるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間後も、自室でテレビを観たり本を読む習慣のある利用者は、状況に応じて本人本位に過ごしてもらっている。時間が分からず、眠れない利用者にも寄り添う支援をして、眠気が来るのを待っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、申し送りやミニトレーニングを通じて、利用者一人ひとりの病気や服薬状況について理解を深めている。そのうえで、服薬が減らせる支援もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳むこと、米をとぐこと、盛り付けや配膳することなどを、利用者ができることを主体的に行っている。役割のある生活に加え、外出や歌、食事を楽しむ支援を多く行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援で定期的な外出や遠出ができていない利用者もいるが、出来ていない場合は特に心配りをして、屋外に出る機会を増やしている。買い物や図書館に行きたい要望があれば、即時の対応を心がけている。	早朝の仁淀川沿いの土手の散歩に同行し、近隣の商店や公園、図書館等へ利用者の要望に沿って外出支援をしている。歩行困難な利用者も、車いすで屋外に出る支援を積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小遣いを持つ利用者は少ないが、預り金を持って職員と買い物に行き、自分で買い物をするなどの支援をしている。家族の理解を得られるように、支払状況の報告を詳細にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得ており、希望する時にいつでも電話ができるように支援している。携帯電話を所持する利用者も、自由に使えるよう充電などの支援や、使い方が分からない場合の手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木調と淡いグリーンで統一したリビングは、天窓からの光が眩しすぎる際にはブラインドで調整をしている。ベランダの掃き出し窓からは、隣家の花や木が季節を伝えてくれている。	利用者が食事や団欒をするリビングルームには円形のテーブルと椅子、中間色のソファ等が置かれ、天窓から差し込む自然の光が調和した、ゆったり居心地良く過ごせる共用空間になっている。トイレや浴室も利用者のADLに配慮した設計となっており、楽に使用できる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	高さの違う椅子とテーブルを配置し、気の合う利用者同士でお茶を飲んだり、食事したりしている。新たにホール内に畳コーナーを設け、縁側のような使い方ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、馴染みのある私物は利用者のための福祉用具になるとの事業所の考えを、を家族に伝えている。自作の木彫りの椅子や使い慣れた筆筒を持参している利用者もあり、本人は居心地よく過ごせ、職員もこれまでの暮らしに触れることができている。	居室には家族写真や使い慣れたタンス、趣味で彫った木彫り箱など、馴染みの物が置かれている。タンスの上には、職員のアイデアで利用者の89歳の誕生日を祝う色紙が飾られていた。利用者が居心地よく、楽しく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字が読めなくなった利用者の居室入口には、現役時代の仕事にまつわる馬の写真を貼っている。他にも、リボン等で目印になるものをつけて、自分で考えたり、トイレに行ける支援をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				